



▲VRで見た内観の様子

が希望する部屋の様子を実際に見ることが困難な状況であった。また、新型コロナウイルスの影響により、施設に訪れなくても内見できる仕組みの必要性を感じ、導入に至ったという。

導入したシステムは伊藤忠テクノソリューションズのVivid Platform。各居室の映像が3Dで表示され、実際に施設に行かなくても、まるでそこにいるかのような「リアルな見学体験」を味わえる。入居検討者は自宅にいながら部屋の様子を確認し、入居募集担当者とのコミュニケーションをとることが可能。また、居室の寸法も表示されることにより、家具の配置も検討しやすい。

同施設の事務管理課募集担当の戸倉大輔氏は「コロナ禍でも安心して見学いただけるような工夫をしていく。今回のVRを利用した『リアル感』から得たお客様からの信頼を、今後の取り組みに活かしたい」と語る。

## VR内見を導入

「リアルな見学体験」で入居検討

一般財団法人日本老人福祉財団（東京都中央区）が運営する介護付有料老人ホーム「京都へゆうゆうの里」（京都府宇治市）は、

9月23日よりVR内見可能なシステムの導入を開始した。

同施設は2018年からほぼ満室となっているため、入居検討者